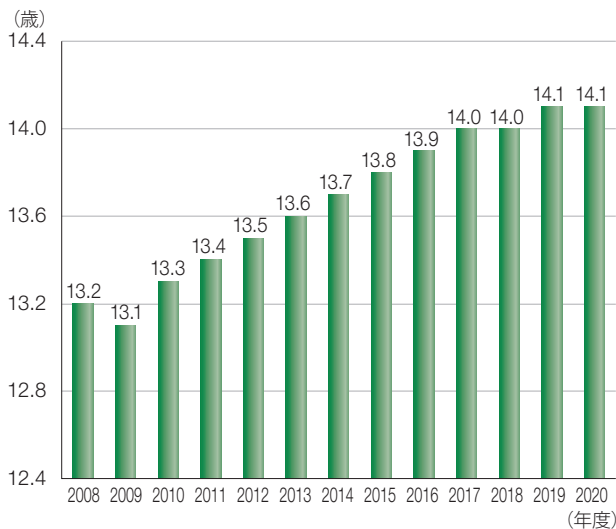
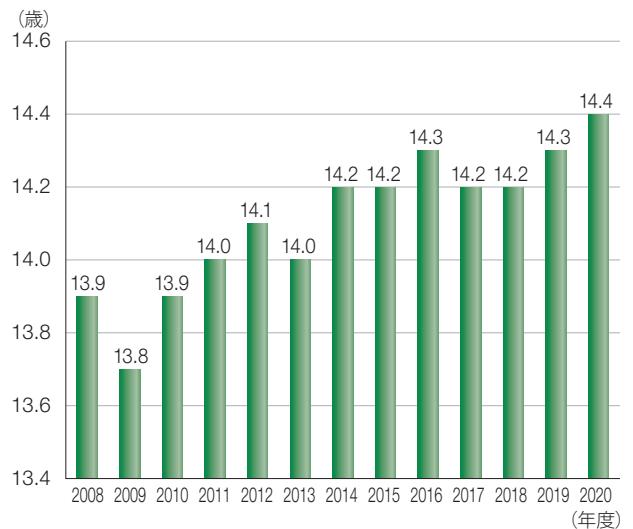


# 1. 犬と猫の寿命

2-4-1 犬の平均寿命の推移



2-4-2 猫の平均寿命の推移



2-4-3 犬種別の平均寿命（2020年度）

犬種	犬種群	平均寿命(歳)
トイ・プードル	超小型	15.4
チワワ	超小型	13.8
混血犬（体重10kg未満）	小型	14.8
ミニチュア・ダックスフンド	小型	14.8
柴	中型	14.8
ポメラニアン	超小型	13.8
ミニチュア・シュナウザー	小型	13.6
ヨークシャー・テリア	超小型	13.7
シー・ズー	小型	13.8
フレンチ・ブルドッグ	中型	11.1
マルチーズ	超小型	13.6
カニンヘン・ダックスフンド	小型	15.0
パピヨン	小型	14.2
ウェルシュ・コーギー・ペンブローク	中型	12.5
ゴールデン・レトリバー	大型	10.9
ジャック・ラッセル・テリア	小型	14.6
ラブラドル・レトリバー	大型	12.6
バグ	小型	12.6
キャバリア・キング・チャールズ・スパニエル	小型	12.2
ミニチュア・ピンシャー	小型	14.7
ペキニーズ	小型	12.9
ビーグル	中型	13.5
混血犬（体重10kg以上20kg未満）	中型	14.3
イタリアン・グレーハウンド	小型	14.9
ボーダー・コリー	中型	12.9
シェットランド・シープドッグ	小型	12.7
ボストン・テリア	小型	11.8
ビション・フリーゼ	小型	14.1
アメリカン・コッカー・スパニエル	中型	13.4
バーニーズ・マウンテン・ドッグ	大型	8.7
日本スピッツ	小型	13.3
秋田	大型	11.5
スタンダード・プードル	中型	12.1
混血犬（体重20kg以上30kg未満）	大型	13.7
シベリアンハスキー	大型	11.2
ウエスト・ハイランド・ホワイト・テリア	小型	14.8
甲斐	中型	12.9
イングリッシュ・コッカー・スパニエル	中型	13.6
ブルドッグ	大型	9.4
ノーフォーク・テリア	小型	12.2

2-4-4 猫種別の平均寿命（2020年度）

猫種	平均寿命(歳)
混血猫	14.9
スコティッシュ・フォールド	13.6
アメリカン・ショートヘア	13.6
マンチカン	13.7
ノルウェージャン・フォレスト・キャット	13.6
ブリティッシュ・ショートヘア	13.4
日本猫	15.2
ラグドール	14.9
ロシアンブルー	13.9
メイン・クーン	12.9
ベンガル	14.2
ペルシャ（チンチラ）	14.3
ミヌエット	8.3
ソマリ	14.1
ラガマフィン	13.5
サイベリアン	15.7
アビシニアン	14.0
アメリカン・カール	14.8
ペルシャ	13.7
エキゾチック・ショートヘア	12.2

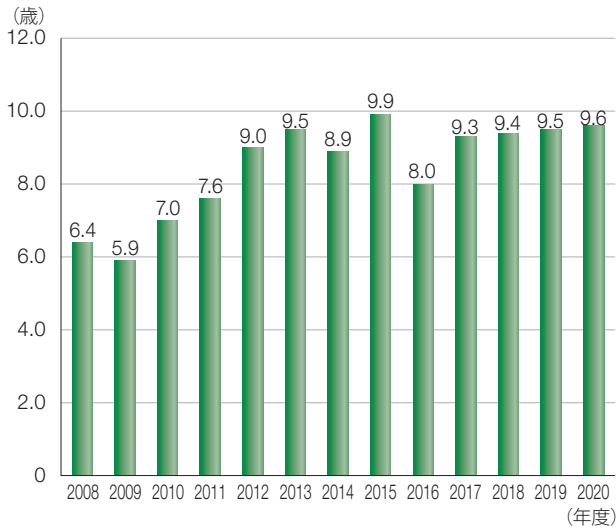
2-4-1～2-4-4  
2008年4月1日～2021年3月31日までに、アニコム損保の契約を開始した犬および猫を対象に、年度ごとに各年齢での契約頭数と、それらのうち死亡解約の届け出のあった頭数を集計し、カレント生命表を作成した。0歳時点での平均余命を平均寿命とした。各品種の比較では、犬は契約頭数の上位40品種を、猫は上位20品種を対象にそれぞれ生命表を作成し、平均寿命を比較した。



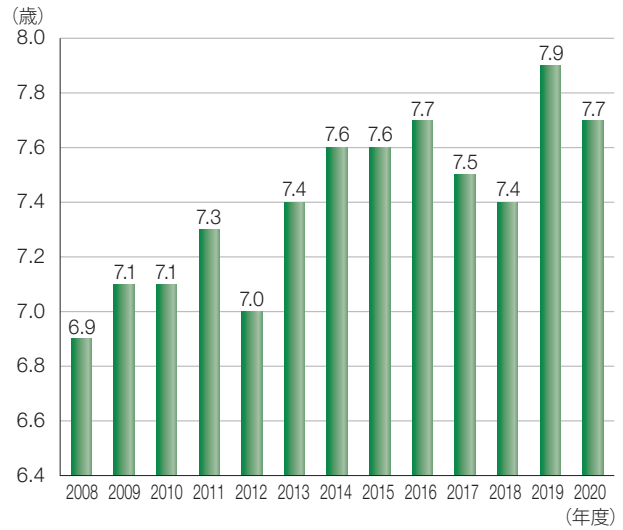
第2部 第4章 死亡と寿命

2. エキゾチックアニマルの寿命

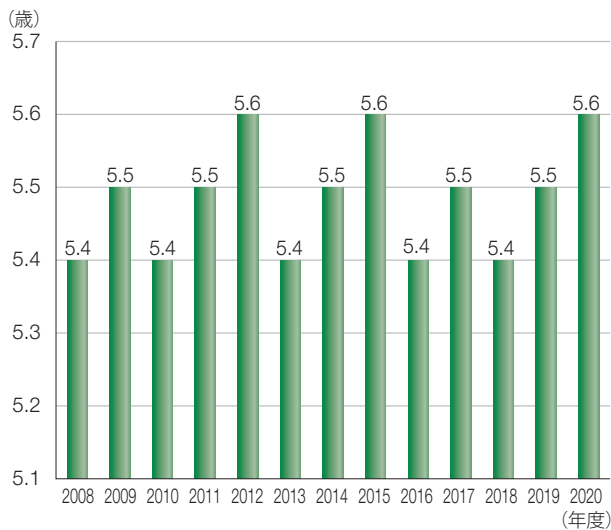
2-4-5 鳥の平均寿命の推移



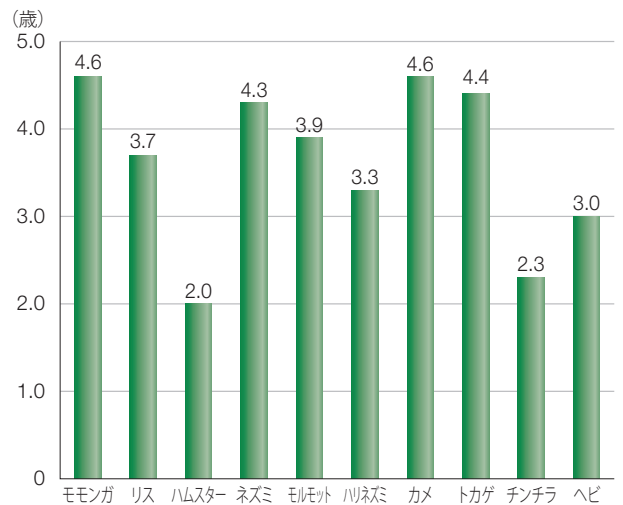
2-4-6 うさぎの平均寿命の推移



2-4-7 フェレットの平均寿命の推移



2-4-8 エキゾチックアニマルの平均寿命 (2020年度)



2-4-5～2-4-7

2008年4月1日～2021年3月31日までに、アニコム損保の契約を開始した各エキゾチックアニマルを対象に、年度ごとに各年齢での契約頭数と、それらのうち死亡解約の届け出のあった頭数を集計し、カレント生命表を作成した。0歳時点での平均余命を平均寿命とした。

2-4-8

2020年4月1日～2021年3月31日までに、アニコム損保の契約を開始した各エキゾチックアニマルを対象に、年度ごとに各年齢での契約頭数と、それらのうち死亡解約の届け出のあった頭数を集計し、カレント生命表を作成した。0歳時点での平均余命を平均寿命とした。

## 動物福祉の取り組み

### —アニコム初の保護動物シェルター「ani TERRACE」—

国際的にペットの“家族化”が進み、動物の福祉への関心がこれまでになく高まっている一方で、日本国内では未だ多くの動物が殺処分されている。アニコムでは災害時におけるペットの救護・飼い主支援や保護犬・猫譲渡会の場の提供など、動物福祉に関してさまざまな取り組みを行っている。このコラムでは2022年に開設した保護動物シェルター「ani TERRACE（アニテラス）」の取り組みについて紹介する。

#### 保護動物の現状

近年、「動物は家族の一員」という意識が高まり、ペットにお金をかける人も増えている\*とされる。しかし、その一方で2020年度には、年間7万2,000万頭以上の犬、猫が都道府県等に引き取られ、そのうち2万3,000頭が殺処分されている。殺処分数は2010年度の20万4,000頭から大きく減少しており、動物愛護への関心の高まりがみられるが、“殺処分ゼロ”には至っておらず、動物の保護・譲渡には依然として多くの課題が残されている。

\*経済産業省『ペット産業の動向』：[https://www.meti.go.jp/statistics/toppage/report/minikaisetsu/hitokoto\\_kako/20220311hitokoto.html](https://www.meti.go.jp/statistics/toppage/report/minikaisetsu/hitokoto_kako/20220311hitokoto.html)

#### 三重県と協定を締結

アニコムは2020年2月、動物の保護・譲渡に関する課題等に取り組むため、三重県と「動物愛護の推進等の連携に関する協定」を締結した。協定により、動物の殺処分ゼロに向けた取り組みや、動物愛護推進等に関する普及啓発等の取り組みに向けて県と連携を開始し、2022年4月にアニコムグループ初となる保護動物シェルター「ani TERRACE」をオープンした。

#### 「ani TERRACE」の取り組み

「ani TERRACE」は、三重県多気町の商業リゾート「VISON」の敷地内で、「人とどうぶつがともに輝き、いのちを照らす場所」を目指し、動物の保護・譲渡等を行っている。

施設では、三重県動物愛護センター「あすまいる」



三重県多気町にオープンした「ani TERRACE」の外観

や名古屋市動物愛護センターの保護動物を一時的に預かり、心のトレーニング、身体のケア、しつけなどを行う。人と暮らすことに慣れ、人を好きになったうえで譲渡することが、新たな飼い主の迎え入れのハードルを下げるとともに、飼い主と譲渡動物のミスマッチを防ぎ、終生飼養ひいては殺処分ゼロに繋がるという想いのもと、トレーニングに取り組んでいる。

面積約500㎡の施設は、保護犬エリア・保護猫エリア・ペットホテルエリアの3つのエリアに分かれる。「明るい」「あたたかい」「幸せ」な施設をコンセプトに、ホール等は大きなガラス張りで光が多く入り込むなど、「暗い」「冷たい」といった保護施設が持たれがちなイメージとは異なる外観となっている。

施設ではこれまでに6頭の犬、5頭の猫を譲渡した(2022年11月時点)。一方で、動物関連の専門学校に入学予定の学生たちに対する講演や、施設見学会等のイベントを開催する等、動物愛護の普及啓発にも取り組んでいる。将来的には老犬ホーム・高齢者の飼育サポートもスタートする予定だ。

2022年6月には改正動物愛護法が施行され、動物の心身の健康と幸福を目指す「動物福祉」への動きも活発化している。アニコムはこれまで、災害時の動物と飼い主の支援等を行ってきたが、「ani TERRACE」のオープンをきっかけに、動物愛護、ひいては動物福祉への取り組みを更に加速させ、“全ての生命が輝ける社会”の構築に向け尽力していく。

#### 「ani TERRACE」施設概要

HP：<https://www.ani-terrace.com/>

所在地：三重県多気郡多気町ヴィソン672-1 農園3

定休日：毎週火曜・水曜（祝日は除く）



「ani TERRACE」から譲渡された保護猫の杏珠ちゃん